

次期戦略の策定について（案）

次期戦略策定における方向性

1 生物多様性国家戦略 2012-2020 を意識した上で、本市の特徴を反映した施策の展開

【現戦略の目標と現状】

【生物多様性を取り巻く現状】

【次期戦略の方向性】

【現在の戦略の基本目標と取り組み状況】

「都市と自然との共生」を基本理念に5つの基本目標を掲げ、施策を推進

1 多様な自然環境の保全

市民、NPOによる希少な動植物の保全や竹林の伐採活動などの広がり。

2 市民が育む自然

響灘ビオトープが市内小学校の環境体験科の授業で活用されるなど環境学習拠点としての広がり。

（平成24年10月のオープンから2年半で、のべ63,597人が来園）

3 身近に自然を感じる都市づくり

環境首都100万本植樹プロジェクトによる市内緑化（植樹）が予定より早く進行。

（平成20年度から34年度までの目標に対し、26年度末までで約62万本植樹）

4 市民と自然とのふれあいの推進

小倉南区中谷地区で地元住民が中心となって里地里山の利活用の取り組みを実施。

（里山ウォーキング、漬物コンクールの開催など）

5 自然・生物に関する情報の整備

響灘ビオトープにおいて市民参加型の自然環境調査を実施。

（26年度 ベッコウトンゴ調査を3回実施）

【戦略推進における本市の特徴】

- 市民、NPO、行政等が一体となって組織された「北九州市自然環境保全ネットワークの会」が戦略の進行・管理を実施

→ 市民、NPOなどが生物多様性の担い手として活動し、行政が支援してきた実績

【生物多様性国家戦略 2012-2020 における課題】

生物多様性を取り巻く課題として5つの課題が示される。

- 1 生物多様性に関する理解と行動
- 2 担い手と連携の確保
- 3 生態系サービスでつながる「自然共生圏」の認識
- 4 人口減少等を踏まえた国土の保全管理
- 5 科学的知見の充実

【次期戦略での施策の展開】

（ポイント1）

基本理念と「市民・NPOなどが生物多様性戦略推進の担い手」となる体制は継続

（ポイント2）

生物多様性国家戦略 2012-2020 を本市の実情に合わせて施策を構成

【国家戦略での重点施策】

生物多様性を社会に浸透させる

地域における人と自然の関係を
見直し、再構築する

森・里・川・海のつながりを
確保する

地球規模の視野を持って
行動する

科学的基盤を強化し、
政策に結びつける

本市の実情に合わせた視点で構成

【次期戦略の基本目標】

市民と自然とのふれあいの推進
（この下に3節18個の基本施策で構成）

市民が育む自然
（この下に2節8個の基本施策で構成）

多様な自然環境の保全
（この下に3節11個の基本施策で構成）

身近に自然を感じる都市づくり
（この下に2節15個の基本施策で構成）

自然・生物に関する情報の整備
（この下に2節6個の基本施策で構成）

市民主体

行政主体

（ポイント3）

生物多様性の重要性から生態系サービスと人間生活との関わりとして地産地消の取り組みについて拡充記載

自然からの恵み（生態系サービス）を活用する代表例として農林水産業を掲げ、地産地消の取り組みを通じて1次、2次及び3次産業が連携する経済活動の視点を加えた。

2 5年間（平成22年度-平成26年度）の生物多様性に関する取り組み事例の特集掲載

「響灘ビオトープの開園」と「北九州市自然環境保全ネットワークの会の取り組み」は特集で掲載する。

3 生物多様性に取り組む団体の活動事例の充実

現戦略 8団体 8事例 → 次期戦略 19団体 22事例